

韓国の関釜裁判の原告ハルモニたちに会いに行ってきました。

花房恵美子

2015年11月16日の朝10時半、福岡から釜山・金海空港に着いて、迎えに来てもらったM君と柳賛伊（ユ・チャンイ、不二越 勤労挺身隊原告）ハルモニが入院している海雲台の老人病院に行き、賛伊さんと再会を喜びあいました。

お昼に賛伊さんの息子さんが来てくれて、近くの魚市場の地下でお魚をご馳走になりました。

普段生魚は食べないのですが、ここのお刺身はあまりに美味しくて自分でも驚くほどたくさん食べました。

名前は忘れましたが、近くの海岸で海を眺めながら岸壁に座ってコーヒーを飲みながら5人（賛伊さん親子、M君、花房2人）でお話をして、息子さんは仕事に戻られ、私たちは再度老人病院に行って話し合いました。

M君が一緒だったので、息子さんとの会話も弾み楽しい時間でした。

韓国では、戦時中の徴用工の韓国裁判での勝訴がマスコミで取り上げられているので、自分たち（勤労挺身隊）のことはどうなっているのかとの質問に答えるための話し合いでした。

「最初から解決すべきだったのにそうしなかったからこじれている。

戦争が終わった時は自分の国に逃げるのが精一杯で、自分の年では、給料や貯金をもらうこともわからなかった。

帰ったら朝鮮戦争が起きて、人並みでない苦勞をして、その当時にいくらかでも“お疲れ様”と言われていたら、何も言わないでいたと思う。

忘れようとしていたけれど金文淑会長（挺身隊問題対策釜山協議会会長）の呼びかけ（1991年の申告電話）があったので、日本政府が何もしてくれないのはおかしいと思い、呼びかけに応じた」

「日本政府は少女像を撤去したら“妥結する”というけれど、何もしなくて相手が“したらする”という話は失礼だ」

「日本の下関で裁判するとき、弁護士が裁判が終わるまで5～6年かかると言い、そんなに時間がかかるのかと驚いたが、もう22年も経ってまだ裁判（韓国で）している。いつ終わり、解決するのか？」

と何度も言われた。

応答の難しい質問で、自分たちの非力に嘆息せざるを得ませんでした。

しかし、89歳の賛伊さんはますますしっかりされていて、真っ直ぐ生きる姿勢に学ばされます。

金文淑さんを歴史資料館に尋ね、お疲れの彼女と少し話をしました。

88歳なのにフルタイムで事務所に詰め、当日は釜山の高校で100人ほどの学生に慰安婦問題の話をしてきたとのこと。

凄いとしか言いようがありません。

朴順福（パク・スンボク 不二越 勤労挺身隊原告）ハルモニとは娘さんの仕事の都合で夜にお会いしました。

ますます体調が悪く、耳も聞こえなくなって娘さんに引き取られて同居しておられます。

医者は入院するように勧めるらしいけれど、不眠症なので同室者がいるところには入れないとのことで、娘さんがお世話されています。

ご飯を食べず、麺を少し召し上がるだけだそうで、かなり痩せておられました。

会話は「柳賛伊さんはお元気！」

「あの人はよく食べるから」

(リンゴと柿をむいてもらっていたので)「食べなさい」

この3つの言葉が順番に出てきて、その間には日本の歌を歌って楽しそうにしておられました。

最初お会いした時は痩せておられたのでびっくりしましたが、表情が良かったので安心しました。

聞くと、私たちが来るといので髪もよくとかし、キッチンと服を着ておしゃれをしていたとのこと。

訪問することを喜んでもらって嬉しいことでした。

明るくエネルギーな娘さんとの暮らしは順福さんに穏やかな日々をもたらしていると感じました。

急遽、ソウルの李順徳（イ・スンドク 「慰安婦」原告）さんのお見舞いに行くことにして、韓国新幹線 KTX で釜山ソウルを往復することにしました。

翌17日10時過ぎにソウル駅でTさんと待ち合わせをして、順徳ハルモニの入院する病院へ。

昨年、お見舞いしたときよりも顔色も良く落ち着いておられました。

挺対協ニュースによると、ハルモニが「ご飯を食べさせろ！」と叫ばれるので流動食の量を増やしたとのこと。

彼女の生命力に感動しました。

寝たきりで時々少し目を開けられるくらいで会話は出来ませんが、「痛い！」とか、「かゆい」とかの意思表示はされるので、

意識がないわけではないようです。

もう私たちのことは覚えておられないだろうとおもいつつ、帰るからと声をかけると、手を握り返して下さって、電流に当たったようにしびれ、驚きました。

毎日病院にお見舞いに来ているという娘さん(順徳さんの亡夫の連れ子、順徳さんが育てた)との別れの挨拶の時に、急に自分の服から病院のにおいと一緒になった順徳さんの体臭が立ち昇ってきて涙が出そうになりました。

それは、彼女からの「私はここに生きている！」というメッセージのように感じました。

ソウル滞在は実質2時間半でしたが、言葉はかわせなくても会いに来て良かったと思いました。

97歳の順徳ハルモニの穏やかな顔を思い出しながら、彼女は生かされていると感じないわけにはいきませんでした。

彼女の枕元に日本政府を代表する人が来て深々と謝罪する姿を想像します。

そして彼女が大きな声で「バカヤロー！」という声も聞こえてきそうです。

夢で終わりませんように・・・・・・



~~~~~

訪韓報告を読んで会員の皆さんから感想が寄せられています。  
一部をご紹介します。

~~~~~

☆訪韓報告ありがとうございます。

恵美子さんといっしょに韓国に行ってハルモニたちに会っているような気分になりました。
先日福岡での上映会で、映画のハルモニたちにお会いして最後に彼女たちのお墓が映し
出されて、もうお会いできなくなった、次の人生に旅立たれたと痛感しました。

わたしが自分たちのことにかまけている間、戦っていたハルモニたちがひとりまたひとり
とお亡くなりになり、世の中の状況がどんどん変わって行って取り残されたような気分
です。

解決を求め続けてくださるハルモニたちはご自身と次の世代のために隣人関係をやり直
そうと手を差し伸べてくださっているのにまだわたしはそれに応えることができてない
とおもいました。

☆丁寧な韓国報告をありがとうございました。

20年以上にもおよぶ、息長い支援に頭が下がります。

こういった地道な活動があつてこそ、政治的にわだかまりがあつても、日韓のつ
ながりが続いて行っているのだと思います。

☆原告の女性たちもお年を召されましたね。

亡くなった方々、そして李順徳さんが97歳と言うのにもおどろきました。

まさに彼女は日韓の成り行きを見届けるために生かされているのだと思います。

あの金文淑さんも88歳なのにそんなに活動的なのですね。

だらだらとなんとなく毎日を送っているわたしには、とてもできないし凄いです。

☆ユチャンイさん、イスンドクさんにお会いされたのですね

命ある間に謝罪を！と思いますが……

被害者の皆さんに喜んでもらえるような訪韓でしたね

今できることはこれでしょう

☆ユチャンイさんの頭が真っ白になりましたが、元気そうですね。

いい笑顔だ。声が聞こえてくるようです。